

(インドネシア) - 1 件

1. 5 地熱開発鉱区で入札ーエネルギー鉱物資源省

2019年3月21日

インドネシアのエネルギー鉱物資源省(ESDM) 再生可能エネルギー・省エネルギー総局(EBTKE)は、4月に下記の5地熱開発鉱区を入札にかけると発表した。

地熱鉱区名	資源量 (MW)	予定発電量 (MW)	鉱区場所(州)
ライネア Lainea	66	20	中部スラウェシ州
スンバルン Sembalun	100	20	西ヌサトゥンガラ州
トゥラガ・ラヌ Telaga Ranu	85	5	北マルク州
コタモバグ Kotamobagu	410	80	北スラウェシ州
ボラ・プル Bora Pulu	123	40	中部スラウェシ州

この5鉱区は、2018年10月に入札を取りやめ、国営電力会社 PLN を操業者として直接指名すると発表していた。しかし一転、イダ・ヌルヤティン地熱局長は、IPP によって生産された電力を PLN が購入することを保証し入札にかけると21日に発表した。入札許可申請書はジョン・エネルギー鉱物資源相に提出済みで、現在はその承認待ちとした。

地熱開発鉱区入札に関するエネルギー鉱物資源省令2018年第37号により、事前取引契約(Pre-transaction Agreement/PTA)の合意が入札条件の1つと定められている。今回、PTAには発電量に応じたスライディングスケールの価格設定が盛り込まれる。スライディングスケールのドラフトは PLN 側が作成し、その後 ESDM の承認を受ける必要がある。

イダ・ヌルヤティン地熱局長は、売電価格交渉より、スライディングスケール設定の方が PLN より提示されるスライディングスケール価格を検討し入札参加決定ができるので、料金交渉の時間が短縮がされる利点があるとした。

(出典: 現地ニュース Katadata)